

畜産センター だより

開場50年を見透して

～これからの10年、継続と革新～

碓高原牧場長 田中 穂積

平成30年6月の定期人事異動で第19代碓高原牧場長を拝命いたしました。よろしくお願ひします。

当場は、平成31年4月に開場40周年を迎えました。難航した当場建設の記録をまとめた記念誌をひもとくと、その巻頭に「目先の情勢にとらわれることなく、30年後あるいは50年後を見透した大計を樹立し、何10年か後の丹後半島の農業振興及び府下の畜産経営発展のための拠点として役立つもの」を目標に当場建設計画を策定したと力強く記されています。

開場から今日まで、和牛振興の基地として、時代の要請に応えるべく、種雄牛造成、受精卵の生産・供給と普及定着、改良基礎雌牛候補牛と肥育素牛の安定供給、飼養管理技術の研究と現地指導等々取り組んでまいりました。令和元年9月に開催された中丹子牛せり市では、上場牛のうち、当場出荷牛、受精卵産子など碓高原牧場にルーツを持つ子牛が約4割を占めており、当場の担っている役割の重さを実感しています。

皆様ご存じのとおり、全国的な子牛不足を背景に、肉用子牛相場は超高水準が続いています。京都府における肉用牛繁殖経営の近況を見てみると、子牛価格はこの10年ずっと右肩上がり、実に2.5倍にまで上昇、収益性は大幅に改善しています。一方、戸数はこの40年で729戸から54戸まで減少しています。このことは飼養戸数の維持拡大には「収益性の改善よりも、もっと重要なことがある」ことを明確に物語っています。

この超難題解決の切り札は簡単には見つけられませんが、碓高原牧場では、当場に蓄積されたノウハウ、放牧場をはじめ

令和元年12月 第18号

京都府農林水産技術センター
畜産センター

〒623-0221 綾部市位田町檜前

電話：0773-47-0301

FAX：0773-48-0722

MAIL:ngc-chikusan@pref.kyoto.lg.jp

URL:http://www.pref.kyoto.jp/chikken/

碓高原牧場

〒627-0248 京丹後市丹後町碓1

電話：0772-76-1121

FAX：0772-76-1123



とする施設などをフル活用して、「子牛」の生産頭数の拡大、優良雌牛群の整備、受精卵の生産供給、子牛せり市への安定出荷、妊娠牛譲渡、長期不受胎牛の預託管理等に地道に着実に取り組み、生産基盤強化策を下支えすることにより、これからも肉用牛農家のみなさまに寄り添い、励まし、伴走していきたいと考えています。

また、開場以来40年続けてきた主要業務の乳用牛育成事業も、初妊牛価格の高騰を背景に、令和元年度から新たに京都府と生産者団体がリレー方式で連携する「乳用後継牛府内確保事業」がスタートしました。令和2年春から順次、JA全農京都の農場で約1年哺育・育成された乳用育成牛が、繁殖のため当場に入牧いたします。

今年5月、平成から令和となり、新たな時代が始まりました。京都府畜産の未来を見据えると、これからの10年は、これまでで最も重要な10年になることは誰の目にも明らかです。「丹後半島の農業振興及び府下の畜産経営発展のための拠点として役立つこと」が碓高原牧場の設置目的であり果たすべき最重要任務であることを再確認し、全力でその任務を遂行いたします。